



地球温暖化によって氷が溶ける。
北極・南極の動物たちを救おう。

▲SAVE THE EARTH 北極・南極に生息する絶滅危惧種 | 清永 千尋

地球温暖化などの環境問題が進む中、様々な動物が絶滅しました。特に北極や南極では海水の温度が上昇し、住む場所を失った動物がたくさんいます。その動物たちのデスクトップを制作し、サイトで募金活動呼びかけて少しでも多くの命を助けようという環境プロジェクトを想定し卒業制作としました。



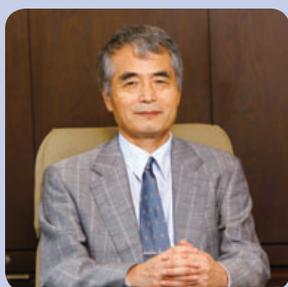
共立がいま進めている、 環境学習への取り組み

近年、日本では“環境”問題が改めて注目されています。

共立女子大学・共立女子短期大学では、環境問題の諸相をテーマにした授業をはじめ、自然科学系、人文・社会系、実学・スキル系などのさまざまな学びを組み込んだ、すそ野が広い、特色のある環境学習を行っています。

本学の環境・防災に関する授業・取り組みの一部をご紹介します。

Message | 学長メッセージ



共立女子大学・共立女子短期大学
学長 入江 和生

近年、世界中で大きな自然災害が頻発しています。自然が人間の手に負えないものになってきているという印象があります。でも、もともと、人間こそ自然にとって手に負えないものであり続けてきたのです。

人間も自然界の一員ですが、ややもするとその自覚が薄れてしまうところに問題があります。環境問題とは、つまるところ、いかにして人間を自然界の一員としての定位置につけるか、ということなのでしょう。

本学は以前から環境問題にかかわる授業が多く、本学学生は「自然に」環境問題についての見識を深めています。これからは、それをもう少し意識的にやりたいと考えています。

環境教育は、深い意味での人間教育なのです。

Report | 学生の取り組み

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトを テーマに卒論研究

国際学部 奥山 裕美子



銀座ミツバチプロジェクトに興味を持ったきっかけは、アルバイト先の近くにあったハチミツ屋さんでの試食でした。今まで外国から輸入された安価なハチミツしか食べてこなかった私には、栗の味がするハチミツはあまりにも衝撃的でした。ハチミツは全部同じ味だと思っていたから尚更です。そこからハチミツについて調べていくうちに銀座ミツバチプロジェクトに出会いました。

共立アカデミー主催で見学会があると聞き、すぐに申し込みをしました。いざ見学してみると、屋上の空調室外機などのパイプをくぐった先に巣箱が置いてありました。こんなところでミツバチを飼っているのかと、驚きました。しかし、ミツバチが晴れの日にはブンブンと嬉しそうに飛び回り、雨の日には雨に打たれながらも必死に採れた蜜を巣に届ける姿はとても健気で、まるで「働きバチ」といわれる日本人のようだと思いました。

採れた時期が1週間違う「銀座のはちみつ」を試食させてもらおうと、味が全然違うことに気づきました。巣箱が同じ場所にあっても、採る時期や天気によってハチミツの味が変わる面白さ、銀座でミツバチを飼うという意外性に魅せられ、卒業論文をこの銀座ミツバチプロジェクトについて書くことに決めました。

この活動を調べていくうちに、創立者である田中氏や高安氏が目指しているところは、「無農薬の世界」の実現ではないかと今まで私は思ってきました。というのもコラボレーションしてる地方の団体の多くは、どこもミツバチが住みやすい環境が整っている、あるいは整えたいと思っている団体や、里山などの環境保全を訴えている団体だったからです。

ところが、これを共立アカデミー見学会で直接、田中氏にお尋ねしたところ、答えは「ノー」でした。「無農業にすることで、時間と手間がかかるため生産者の収入は少なくなることが考えられる。しかし、そうではなく、この活動を通じて社会的課題を解決したい、有形無形の資源を形にしていきたい。」とっていました。「この団体の目的は、銀座を通じて地方をつなげていくこと。見えない価値をそのまま消して行くのはもったいない。これをいかに発信していくか、人と緑をつないでいくかが大切だ。」ということでした。また、「僕らは“農業反対”などと叫ぶ集団ではありませんが、示したいのは、ミツバチが生きられる環境が銀座にあって、地方にないのはどうということなのか、と。社会のあるべき姿を銀座から発信する。都市の新しい可能性を示してみたいのです。」とも述べておられました。この「あるべき姿」というのが、自然と人間とが共生する街を指している、というのが私なりの解釈です。

共立アカデミーの講座や卒論研究を通して、ただ銀座でハチミツを採るだけではなく、銀座という立地を生かした情報発信を行ったり、銀座と地方の人々のネットワークを作ることによって新しい価値を創造し、地域振興に役立てていることがわかりました。

全国に広がるミツバチプロジェクト。いつか共立女子学園でもミツバチを飼う時が来たら、私もお手伝いしてみたいです。



Report | 共立アカデミーレポート

Report 01

「江戸東京たてもの園見学ツアー（前期・後期）レポート」

本学のエコツアーの中で、環境と建築との関係を考えていくことをテーマにこのツアーを実施しました。

小金井公園の中にある東京都が管理するこの建物のテーマパークは広大なスペースで、本学家政学部建築・デザイン学科の堀教授に解説いただき、たいへん興味深く園内を見学しました。

当初前期1回の予定でしたが、参加者に非常に好評で、すべての建物を見られなかったため、前期5月と後期11月の2回実施しました。

（前期コース）

江戸時代の民家
網島家（農家） 江戸中期
吉野家（農家） 江戸後期
西洋建築
デ・ラランデ邸 1910年
洋風郊外住宅
大川邸 1925年（関東大震災後）
モダニズム住宅
小出邸 1925年
前川國男邸 1942年
町屋
仕立て屋（店舗付住宅）
江戸後期～明治
看板建築
花市生花店 1929年（関東大震災後）

（後期コース）

常盤台写真場 昭和12年
三井八郎右衛門邸（書院造り）昭和27年
高橋是清邸（書院造り）明治35年
西川家別邸（書院造り）大正11年
会水庵（茶室）大正期頃
小寺醤油店 昭和8年
万徳旅館 江戸末期～明治初期
子宝湯 昭和4年
鍵屋（酒問屋）安政3年

建築物を外観からだけでなく、建物の中に入って、先生に解説いただき、先人の生活の知恵や、建築家の考え方、技術・手法等の工夫をうかがい、当時の生活様式を想像しながら園内を巡っていくと、江戸、明治、大正、昭和と建物の時代に合った、何かノスタルジックな、それぞれの時代にタイムスリップした気分になり、建物の不思議な魅力を実感しました。

いろんな建築を見ていく中で、昔、子供の頃、日本橋で実際に看板建築に住んでいたという参加者が、たいへん懐かしがっていたのが印象的でした。看板建築とは、関東大震災後に東京の中央区や千代田区にできた固有の建築様式で木造建築の道路面に「看板」のように衝立を取り付けた建築です。最近あまり見なくなりましたが、本学の近くの神保町古書店街に今でもわずかに残っています。

この見学ツアーの楽しみは、建物自体を実際に見るのが半分で、もう半分は、その時代や当時の生活や人々の考えを感じるような気がしました。街を歩く楽しみが増えるような好奇心いっぱいの講座でした。

この見学ツアーの楽しみは、建物自体を実際に見るのが半分で、もう半分は、その時代や当時の生活や人々の考えを感じるような気がしました。街を歩く楽しみが増えるような好奇心いっぱいの講座でした。



Report 02

「個人で備える防災対策」

文芸学部 松本玲奈

「個人で備える防災対策」講座に参加しました。

組織で行う防災訓練等は学校や会社で実施されています。それに対し、個人でどのように災害に備えるかという訓練や講座は、あまり行われていないように思います。実際、私がこの講座で教わった内容は初体験のものばかりでした。

この講座では、災害についての基礎知識を学び、さまざまな防災用品がいかに災害時に力を発揮するかの理解を深めました。災害から自分を守るため、生き抜くためには計画的に準備していかなければならないということを知りました。地震が起こった時にはライフライン（水道・電気・ガス等）が使えなくなるおそれがありますが、普段の生活で当然にあるべきものとして使っているものがなくなることによって困窮することが予測でき、災害に備えておかなければならないと思いました。

講座の中で体験学習として、テントの設置等を行いました。普段使うことのないテントを取扱い説明書も何もない状態でただ渡されましたが、講師の方が手伝って下さるまで組み立てることができませんでした。自分が災害にあった時、平常心を保ち、組み立て方が分からないテントを組み立てることができるのでしょうか。実際、支援物資として届いた防災用品は、災害時に使用方法が分からず放置されることがあるそうです。

私たちの住む日本は自然災害の多い国です。私はこの講座を通して、自分が災害時に何ができるのかを考えました。災害はいつ起こるかわかりません。いつど



こで起こっても自分が行動できるように、個人がそれに関心・意識を持ち、備えることが大切だと感じた1日でした。



家政学部
建築・デザイン学科
林田 廣伸 教授

1976年多摩美術大学大学院美術研究科修了。
外資広告代理店のアートディレクターとして21年間勤務。
毎日広告デザイン最優秀賞、ニューヨークフィルムフェスティバル銅賞、ACC賞などの各種広告賞を受賞。日本デザイン学会、日本広告学会所属。現在も公益性のある事業やNPOのポスター、マークなどの制作を行っている。

主な担当科目
グラフィック・デザイン演習、セミナー、デザイン概論ほか



MSC(海洋管理協議会)と林田ゼミ協働展示・発表会
写真は2012年イオン津田沼店特設会場にてMSC(海洋管理協議会)のポスター発表の様子。MSCポスター展示はイオンの他、エコプロダクツ展、スーパーマーケットトレードショウ等。また、これまでに国際NGOコンサベーション・インターナショナルとは東京・銀座ソニービル、世界銀行情報センター、JICA地球ひろば、丸の内・住友信託銀行、スターバックスコーヒージャパン銀座マロニエ通り店、三菱地所丸の内さえずり館等で展示と発表会を行っている。

グラフィック・デザインの手法を使うことによって、より環境問題を理解していく

Education policy 生活者の目線で「環境」を考え、メッセージを発信すること

家政学部は人間がいかに生きていくかを探る場であり、そのために必要な知識や技術を学生が習得できるよう、私たち教員は道筋を立てていかなければならないと思っています。私はグラフィック・デザインという手法を通して、もの創りの目的を学生たちに理解させ、どのようなものを創り、どうメッセージしていくべきなのかを体感させる責任があると感じています。

2012年からは、国際NPOのMSC(海洋管理協議会)と協働でポスターの制作と発表を行っ

ています。テーマは「どうしたら水産資源を守れるの?」です。環境問題の難しさは、ほとんどの人が環境問題には気づいているけれども、行動を起こしづらいことです。「今、私たちに何ができるのか。」学生の素朴な等身大の視点でポスターを制作していくことで、展示作品を見てくださる皆さんとともに環境問題のキャッチボールができるのではないかと考えています。家政学部で学ぶ環境とデザインには、そういった大きな目的と使命があると考えています。

Main class 広告制作のメソッドを活用して、公益性のあるテーマに取り組む

2003年から、地球温暖化や、水と衛生など、環境をテーマにしたグラフィック・デザインの取り組みをゼミで続けています。2005年からは国際NPOのCIと生物多様性をテーマに、2012年からはMSC(海洋管理協議会)と協働展示と発表を行っています。

テーマからどのようにしてアイデアを導き出さか。それはキーメッセージとキービジュアルをしつかり構築することです。そしてそれを表現するデ

ザインの技術が必要です。これがなかなか難しいのですが、これらを導き出す広告制作のメソッドを用意して、学生に理解させ、活用することにより、単なる感覚ではない作品ができると信じています。作品制作のプロセスは彼女たちの環境意識を向上させます。この大学を卒業して、社会に出ていった時、また家庭をもった時にも、環境に対する気持ちが持続し行動につながっていくことを、私はいつもイメージして授業に取り組んでいます。



国際学部
国際学科
細野 豊樹 教授

1994年東京大学大学院法学政治学研究科修了。公共政策学修士(MPP)、法学修士。研究分野は政治学、アメリカ研究、環境学など。環境庁での行政経験と専門知識を生かしながら、アメリカ合衆国の環境政策や地球環境問題について、研究・分析が続いている。またインターネットなど、情報技術が政治に与える影響についても研究。最近の主な業績に「気候変動の科学をめぐる政治—アメリカと国際機関における政策論議のモデル化」、「アメリカ現代政治の構図」、「オバマ政治を採点する」などがある。

主な担当科目
環境・科学の諸課題、政治分析の基礎、アメリカ文化論、地球環境論ほか



住民の要求で作られた市街地再開発事業の模型

身近な環境と関わる公共政策の策定において、行政および事業者は、複雑な計画を市民に分かりやすく説明する責任を負う。写真は、横浜市北部の駅前再開発事業の模型。イラストでは不十分だとする住民意見に応じて作成された。

環境問題についての知識を体系的に伝え、判断の基準を養う 自分が住む街の環境を調べ、参加型の意識を育む

Education policy 環境リテラシーの意義、争点につき判断する市民としての教養

3.11以降、日本における環境・エネルギー政策は曲がり角にきています。こうした中で、市民からの政策へのインプットが、今までになく重要です。真の「政治主導」とは、官僚任せが政治家任せになることではありません。市民の声が、政治と行政を動かすことなのです。

政治主導が強くなっていくと、市民の環境リテラシーがますます大事になります。地球温暖化

対策にしても、原子力の安全にしても、賛否両論のさまざまな意見が飛び交います。このため、だれが言っていることを信用できるかを、市民が判断する教養が求められるのです。

共立女子大学では、こうした要請に対応すべく、理科系と文科系の専門家が、学問の専門性、体系性を保ちながら、わかりやすい環境学習に取り組んでいます。

Main class 身近な環境問題から入って、知識を広め掘り下げ、自分の考えを持つ

本年度開講の「環境・科学の諸課題」は、政治が専門の私のほか、理科系の先生方2名による3クラスです。私の授業では、典型7公害(大気汚染、水質汚濁、騒音など)を始めとする基本を、環境の基準をめぐる科学と絡めて、国際比較も交えながら、わかりやすく講義するよう努めています。教養教育科目は、3・4年生も受講対象なので、わかりやすさだけでなく、密度が高い内容を盛り込むことにもこだわります。近年、福島第一原子

力発電所事故による放射線の健康影響も取り上げていますが、専門家の意見が分かれる難しい問題です。授業では学生にさまざまな論点からの記事を配り、判断の難しさを伝えていきます。また、問題意識、参加意識を高める観点から、自分たちが住む街の環境について調べて書くレポートを、毎年課しています。身近な環境がテーマなので、学年・学部学科を問わず、読み応えのあるものが多くて嬉しく思います。

自分たちが日々、暮らしている“環境”を意識させることで、 社会の仕組みへの興味と自主的な行動力を養う

Education policy 街の話題、ファッションへの興味から「環境への気づき」を育む

生活科学科では、生活に関する実践的な知識・技能の習得を養成目的の一つにしています。私たちに身近な衣服、生活道具や空間は、とりまく環境とともに変化するという視点から、歴史や風土、経済や世界情勢といった社会環境が生活に影響を与えることを、まず理解してもらいます。同時に、演習や学外授業を通じて、地球や自然環境

といった大上段の環境だけが対処すべき問題ではなく、日々の生活や人々の装い、街や地域などの、より身近な環境について考察する必要性を教えます。ライフスタイルを変えることで解決できること、またその可能性を、学生一人ひとりが自発的に考え、行動できる主体になってほしいと考えています。

Main class 流行に流されないために流行を知る。環境とは何かも自分で考えていく

「生活デザイン演習」では、彼女たちに身近なスタジオジブリのアニメを題材に、環境を考える授業を進めています。『もののけ姫』では、人間が生み出した科学技術が森林や動物を消滅させてしまうという、自然と人間の相克がテーマになっていますが、娯楽として見てきたアニメの中で、実は語られていた自然破壊の現実を、自分たちはどう受け止めていくべきなのか。彼女たちの興味や感じたことの視点に立って授業を進めます。

教養教育科目の「デザインの現在」では、近代化とデザイン様式の変容を扱いますが、消費者と

して、時には生産者として活動する私たちが、現代社会の根底にあるデザインと消費の関係を考えるにあたって、ファストファッションと流行の問題や、「あなたのTシャツはどこから来たのか」といったグローバル社会を扱ったものを題材にします。

また、物理学者として著名なエイモリー・ロビンズの『分散型エネルギー社会』なども紹介し、直面しているエネルギー問題を中心に、環境デザインの重要性について考察を進めています。

短期大学
生活科学科

渡辺 明日香 教授



1996年共立女子大学大学院家政学研究科修了。2012年首都大学東京大学院人文科学研究科修了、博士(社会学)。専門は現代ファッション・色彩・生活デザインであり、若者文化・ファッションやデザインをめぐるコミュニケーション・情報メディアとかかわりなどを研究している。また、1994年より実施しているストリートファッションの定点観測をもとに、人々や街をとりまく環境の変化を実証的に捉えている。主な著書に「ストリートファッション論」「色のしくみ」などがある。

主な担当科目

生活デザイン演習、デザインの現在、ファッションデザイン論、色彩学、身体メディア実習 ほか



学生が親しみやすいDVD、テキスト

環境問題を実感するため、視覚的な映像作品を授業で紹介している。ファストファッションをテーマに、デザインする側や消費する側だけでなく、生産する側に焦点を当てた「女工哀歌」や「ザ・トゥルー・コスト」は、学生たちにリアルに響いている。

地球環境との関わりの中で、生命はどのように誕生して進化し、 私たち人類はどのように生かされているかを学ぶ。

Education policy 「食物」と「健康」について生物学の視点で取り組む

食物栄養学科では、「食物」と「健康」という2つの視点からカリキュラムが組まれ、人々の豊かで健やかな食生活を実現するための知識や技術を修得することができます。私たち人間の身体は、およそ60兆個の細胞でできていますが、肉や魚だけでなく、野菜や果物もその生物の細胞からできています。すなわち、私たちが毎日食べている食物のほとんどは、生物の身

体そのものなのです。日常生活で欠かせない食事について、生物学の視点で眺めてみると、私たちが毎日食事をする意味だけでなく、生命に深く関わる地球環境の重要性が理解できます。発見されているだけでも100万種類を超える動植物が生きる地球環境との関わりの中で、私たち人間はどのように生かされ、生きていくべきかを学んで欲しいと思います。

Main class 地球と生命の関わりに重点をおいて考えていく

地球が誕生して46億年。その永さが実感しにくいので、46億年を1年間のカレンダーで考えます。そうすると、地球に最初の生命が誕生したのが2月頃、私たち人類の誕生は、12月31日午後11時35分頃となります。つまり、地球の歴史の中で、人類の足跡はたった25分間しかない。このカレンダーでは、およそ150年が1秒という計算になり、私たちの一生は0.5秒間程度です。人類はまったくの新参者で、ちっぽけな存在なのです。しかし、たった1個の細胞から始まった生命は、35億年という長い時間をかけて、およそ60兆個の細胞をもつ人類にまで進化し、その生命の連続性はこれからも続くはず。ここで「…はずです」と述べたのは、「私たち人類が絶滅しなければ…」という仮定の上に立っているからです。

35億年の地球生命の歴史は、その時々には繁栄した生物の絶滅の歴史でもあります。近年、持続可能な社会を維持する上で、地球温暖化の防止が世界共通の重要課題の一つになっています。しかし、地球の長い歴史の中では、温暖化や寒冷化が何度も繰り返され、その度に様々な生物が大量絶滅しています。こうした地球環境の大変動は、巨大隕石の衝突や火山の噴火によるものだけでなく、そのときに繁栄した生物自身の営み(繁殖過多・共生破壊など)がもたらしたものもあるといわれています。つまり、現代に目を向けると、人類の様々な経済的活動などが、温室効果ガスを増やし続けていることも、際限なく繁栄しようとする生物の営みの一つであるともいえるのです。

家政学部食物栄養学科
生物学研究室

川上 浩 教授



1982年：東京大学農学部農芸化学科卒業。1988～90年：University of California, Davis, Department of Nutrition, 1993年：博士(農学)東京大学。25年間の食品企業研究所勤務を経て、2007年に共立女子大学へ。食品に由来する生理活性成分や微生物の機能性と安全性を中心に、生物学的観点からの教育と研究に取り組んでいる。2009年：東京大学大学院農学生命科学研究科非常勤講師。2013年：「日本酪農科学会賞」受賞。

主な担当科目

生物学、基礎生物学、分子生物学、生化学、生物学実験、生化学実験、食生活素材論、食品学特論、食品学演習、ほか



生体成分精製装置

生体成分を変質させることなく分離するための装置。食物や人体に含まれる生理活性成分や環境汚染物質を、そのままの形で分離して解析することができる。



家政学部
建築・デザイン学科
松本 年史 教授

1977年、東京芸術大学大学院美術研究科建築理論専攻修了。博士(国際文化)、芸術学修士、一級建築士、構造設計一級建築士。大学院修了後、木村俊彦構造設計事務所に入社、建築家とのコラボレーションで多数の建築設計に携わる。1988年、松本構造設計室を設立。1999年より2011年まで東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授。2011年より共立女子大学家政学部建築・デザイン学科教授。

主な担当科目

構造力学、構造計画、構造設計、建築材料 ほか



月山志津温泉「雪旅籠の灯り」ワークショップ

雪の旅籠を作って、昔の月山志津温泉の町並みを再現するイベント。他の雪まつりでは雪を積み上げて作るのに対し、自然に積もった雪を掘り込んで建物を作っているのが特徴。雪は溶けて水となり、周りの木々や作物の成長を助ける究極のエコ材料。地域の特性を生かした活気あるイベントとして、第13回「ふるさとイベント大賞」で最高賞「総務大臣表彰」を受賞した。

資源やエネルギーの使用や廃棄物を減らし、環境再生を最優先する「持続可能な社会」に求められる建築と構造を考える

Education policy 持続可能な社会に求められる大学教育

「持続可能な社会」に求められる条件は、「①生活の質の向上、②環境への影響の削減、③公平性の実現」の3つであると考えます。この問題に対する最近の社会の取り組みを見ると、「②環境への影響の削減」が主要テーマとなっていることが多いと感じますが、3つの条件がバランス良く充足されて初めて「持続可能な社会」が達成されるのではないかと思います。

家政学部は、この3つの条件の「生活の質の向上」に深く係わる「衣・食・住」環境分野の学科で構成されており、これからの持続可能な社会を達成するために重要な役割が期待される学部であると考えます。建築・デザイン学科は、「住環境の向上」に係わる問題を、建築とデザインを通して解決していくために必要な知識を身につけ、社会で実践していくための応用力を養う教育を行っています。

Main class 持続可能な社会に求められる建築教育

高度成長の時代の中で、日本の建築は高品質な材料と高度な建設技術によって、大きく発展してきました。しかし、高い経済成長と引き替えに、解決しなければならぬ環境問題や社会問題が生じています。

環境問題では、地球温暖化への対策として二酸化炭素排出量の削減が求められています。日本は世界第4位の二酸化炭素排出国であり、その1/3は建築関連のものであるといわれています。建築分野での二酸化炭素の排出を含めた環境負荷の削減は、持続可能な社会達成にとって不可欠な課題であると考えます。私の専門である建築の構造設

計の分野でも、鉄とコンクリートとガラスに代表される工業生産された材料は、建築の可能性を拡大してきましたが、同時に環境負荷も増大させることになりました。持続可能な社会に求められる建築を考える時、これまでのスクラップアンドビルドの建築スタイルを見直し、木や土といった自然素材の活用を考える教育が求められていると考えます。また地域性に目を向けることも大切で、その体験的教育の場として、積もった雪を利用して旅籠をつくる「雪旅籠の灯り」ワークショップを山形の月山志津温泉で地元の方々や学生たちと一緒にを行っています。



短期大学
生活科学科
岡田 悟 教授

1983年東北大学大学院工学研究科建築学専攻博士後期課程満期退学。専門は近世住宅史。人の生活の容れ物である住宅からは、生活をとりまくインテリア空間や建築空間を通じて、多くのことを学ぶことができます。現在よりも科学や技術が未熟であった時代には、人は周囲の環境に敏感で、環境と上手に付き合ひながら生きてきた。現在においてもこうした知恵を活かした空間づくりに取り組んでいる。

主な担当科目

インテリア設計演習、インテリアCAD基礎演習 ほか



手描きとCADを使用した授業

手描きとコンピュータを使ったCAD(コンピュータ支援設計)とは、車の両輪のような関係であり、両方を共に学習するのが生活科学科の伝統。また、テキスト類は「住まいとインテリアデザイン」「建築設計資料集成」といった基礎的な知識やデータが載せられたものを用い、授業ではその応用力を高める方針である。

日々の暮らしを支えるインテリア空間こそ“環境”そのものであるという認識に基づいて、自分とその周囲を検討、考察する

Education policy 異なる価値観のぶつかり合いが新たな地平を生み出す

生活科学は生活者の学問であり、生活者は生産者と消費者の両方の性格を共に持つものです。つまり、生産者はしてあげる側の、消費者はしてもらおう側の人間といえます。今まで学生諸君はしてもらおうが多かったと思いますが、今後はしてあげることができれば社会で信頼や収入を得られません。

学生時代はしてあげる人になる準備期間といえ、してあげる価値観を獲得する時期です。高校までとは異なる教育の中で、どのような価値観を発見すること

が出来るでしょうか？

環境の問題に限らず、従来思い描いていたイメージとは異なることを授業で聞いたりすることと思います。さらに、何を言っているのかさっぱり分からない先生がいればラッキー。自分とはかけ離れた価値観を持っているが故に分からないのであって、つまりは、自分にない価値観の宝庫なのです。異なる価値観をぶつかり合わせ、大いに混乱して新たな地平が開けるのです。

Main class 環境を空間という形で設計し、表現する孤独で厳しい作業に挑む

学生に「インテリアって何のこと？」と尋ねると「家具のこと」「カーペットやカーテンのこと」「壁飾りや置物のこと」などの答が返ってきます。いずれも間違いではありませんが不十分です。一方、「インテリアの反対語は？」と尋ねると答えられる学生は少数です。正解はエクステリア。門扉やフェンスを指します。

インテリアの領域が文字通り家具から置物までの「内部の」即ち「室内の」ことがらを扱うという時代は過ぎ去り、今は人が発生させる空間を扱うという考えが主流です。扉まわりは人が開けて通って閉めるという

点で人が発生させる空間であり、建物内であっても屋外にあっても間違いなくインテリアの要素です。

こうした新しい概念に立てば「インテリア設計演習」、「インテリアCAD基礎演習」はまさに環境を空間という形で設計し、表現することに他なりません。同時に、設計や表現については、その意味は教えられませんが、設計案、表現作品の作り方のハウツーはありません。従って、各自が知恵を絞り出して作り上げる他はなく、挑戦的で厳しい作業であることを肝に銘じておく必要があります。

地球環境問題を正しく理解し、 循環型社会をめざす持続可能なシステムを構築する方策を探る

Education policy 地球や地球上の他の生物たちとの共存・共進化をめざす

地球の環境は地球誕生以来数多くの幸運が重なって創り出されたものですが、人間活動の急速な増大が温暖化やオゾン層破壊などの地球規模の環境問題を引き起こし、地球上の全生命の存続を脅かすようになりました。環境問題と共に、地球資源の枯渇・爆発的な人口増加・自然災害の大規模化と複雑化なども、早急に改善策を講じなければならない課題です。環境問題については1970年代以

降、多くの国際会議が開かれ様々な条約や宣言が採択されてきましたが、先ずは問題の本質を正しく認識して、共通の理解を得ることが出発点になるでしょう。その上で、今後も地球や地球上の他の生物たちと共存し共進化を続けるために、そして安全で安心な人生を全うするために私たちは何をなすべきか。この点を今、学生の皆さんに真剣に考えて欲しいと願っています。

Main class 地球環境問題・資源問題・自然災害について学び、自ら考える

教養教育科目の「環境・科学の諸課題」を1クラス担当しています。そこでは、地球への理解を深めるために地球と生命の歴史と現状について簡単に説明し、続いて地球環境問題の発生メカニズム・影響・対策と問題どうしの相互関係を中心に講義を進めます。更に、エネルギーやレアメタルなどの資源問題や地震・津波・火山噴火などの自然災害も状況に応じてテーマとして扱います。2011年以降は、東日本大震災の原因となった巨大地震・巨大津波と原子力発電所の事故が提起した放射能の問題を取り上げ、災害への備えや発災時の対応なども検討しています。

家政学部の皆さんには、学部共通科目として「環境学概論」を開講しています。様々な講義や実習科目を通して環境学習に取り組んでいる学生たちが、衣・食・住・児童のそれぞれの専門分野に深く関わる環境課題に適切に対処できる実力を身に付けることをめざします。

これらの講義では、学生たちが各テーマを正しく理解して自ら考える力を養うために、私が担当する科目では「数学」「物理学」「統計学」などの考え方や知識が重要であることを伝えます。授業では、テキストの指定・資料の配布・映像教材の利用などによって、理解と関心を高めるように工夫しています。

家政学部
建築・デザイン学科

杉 憲子 教授



1976年東京大学大学院理学系研究科地球物理学専門課程修了、理学博士。
専門分野は固体地球物理学で、海洋プレートが沈み込む地域のテクトニクスと地震のメカニズムについて研究を行ってきた。1995年の阪神淡路大震災以後は自然災害を、また21世紀を迎えてからは環境科学を研究テーマに加えた。更にここ数年は、科学の教育と普及にも力を注いでいる。著書に「新版地球事典」など、論文に「海洋プレートの一生」「自然災害に対する意識調査」などがある。

主な担当科目

環境・科学の諸課題、数学、統計学、基礎物理学、環境学概論ほか



テキスト・ビデオ教材と放射線量・UV強度測定器

「環境・科学の諸課題」と「環境学概論」では放射線量測定器と紫外線強度計を利用して、現代社会の営みが環境に与える負荷を測定する。また、環境問題のハイブリッドともいえる「沈黙の春」「奪われし未来」「成長の限界」の内容を随時紹介する。

環境問題を私たちの生活の一部であると自覚し、 日々の生活を見直すと共に、持続可能な生活の実現を図る

Education policy 日々の生活から地球の姿を見る

生活科学科では、私たちが一人の人間として自立し活躍するために、生活に関する知識・技術を実践的に身に付けることを目的の一つとして掲げています。人間が生活するためには、環境への負荷はやむを得ないことではありますが、温暖化が深刻化する今、私たちは環境に無駄な負荷を与えない生活を送るための術を養うことが必要であると考えます。

食・健康コースでは、日本が飽食の時代であるが故に、失っていくものの大きさを地球規模で考えられるように指導しています。学生一人ひとりが、食生活を充実させるだけでなく、食と環境との関わり方を考え、生活の中で意識的に環境を考えた行動ができるようになって欲しいと考えています。

Main class 自らの身体、心、取り巻く環境を豊かにする「食」について理解する

地球規模の環境問題では、地球温暖化による環境破壊が取り上げられています。地球温暖化の原因である温室効果ガスの中でも、人為的要因の大きい二酸化炭素について、削減が求められています。わたしたちが生活する上で排出される二酸化炭素は、家電製品・自動車・キッチンなどが由来となります。

「環境調理学」では、食材の特徴を理解し、私たちの身体や心を健康にするための調理法について考えながら授業を進めます。豊かな食生活を提案するとき、食事の見た目、おいしさ、栄養だけでなく、環境にどのように配慮し調理できているかというのも重要なポイントです。環境に配慮した調理と

は、二酸化炭素排出量をいかに減らし調理できるかということになります。食材は、生産・輸送・調理・廃棄の工程を経て、料理として食卓に提供されます。講義では、どのような点に注意し献立設定をし、調理することが、二酸化炭素排出量削減に繋がるのかを考えます。この時、忘れてはいけないのは、見た目、おいしさ、栄養などの要素です。これらの質を落とすことなく、献立設定・調理をしていきます。また、設定した献立は、「調理学実習」の中で、実際に試作・試食を行うことで、実践を通し環境に配慮した調理について理解を深めていきます。

生活科学科

小池 恵 助教



2015年共立女子大学大学院家政学研究科修了、博士(学術)。専門は、調理学・環境調理・食育。環境学習に関する研究では、調理時に排出される二酸化炭素を測定により見える化し、その削減法の提案を行った。博士論文は、調理実習における環境教育のための教材を作成し、教材を使用した授業プログラムの実施とその有用性について検討した。千代田エコシステム推進協議会主催の「エコレシピコンテスト」に卒研・ゼミの学生を参加させ、2014年には指導学生が最優秀賞を収めた。

主な担当科目

環境調理学、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、フードスペシャリスト演習ほか



環境にやさしい調理の発表

実習の授業では、班ごとに考えた環境にやさしい献立の発表をします。実際に体験してもらうことで、環境問題を身近に捉え、温暖化防止行動に取り組みことができると考えます。

2016年度エコツアー

銀座ミツバチプロジェクト
見学会

NPO法人銀座ミツバチプロジェクトは銀座の屋上でミツバチを飼い、採れたハチミツを銀座の一流の技でスイーツやカクテルにいただいている団体です。現在では銀座の13か所(1,000㎡以上)の屋上が緑化され、花畑や野菜畑にして、ミツバチが自由に遊び回れるようになっています。この機会に環境の街“銀座”を探索しませんか。



Navigator 田中 淳夫

2006年3月、「銀座ミツバチプロジェクト」を高安和夫氏と共同で立ち上げる。
2007年、特定非営利活動法人の認証受け、NPO法人銀座ミツバチプロジェクト副理事長に就任。
2008年～、「ファーム・エイド銀座」毎年4回開催、実行副委員長 2010年、農業生産法人・株銀座ミツバチ 設立 代表取締役社長就任

定員 ▶ 20名

日時 ▶ 6月3日 金曜日 14:00～16:00

14:00 銀座紙パルプ会館に集合
銀座ミツバチプロジェクト 田中 淳夫氏による 講演
屋上見学
15:30 質疑応答
(銀座産ハチミツで作ったスイーツ&飲み物ティータイム)

*集合場所: 銀座紙パルプ会館 東京都中央区銀座3-9-11

受講料 在学生 無料、卒業生 2,000円、一般 2,000円

落ち着いたきと活気ある街 代官山を楽しもう!

代官山周辺まち歩き
～近現代建築をめぐる～

建築そして建築群からできる街を理解するには実際にその空間にたたずみ空間を体験することが重要です。街(都市)は時間とともに成長し、良い街には必ず時間の蓄積があります。代官山には一人の建築家(横彦彦氏)が30年かけたプロジェクト「ヒルサイドテラス」があり、豊かでヒューマンな活気のあるそして美しい街並みをつくり出しています。ヒルサイドテラス南側には崖線の豊かな緑を生かした回遊式庭園を持つ大正時代の木造建築「旧朝倉邸」が建っています。また、周辺には大使館、代官山T-SITEなど文化施設も多くあります。この豊かな街・建築について実際に空間を体験しながらお話しします。



Navigator 堀 啓二

共立女子大学家政学部建築・デザイン学科教授。東京藝術大学美術学部建築科卒業、同大学院修士課程修了、芸術学修士。1989年より建築設計事務所(山本・堀アーキテクト)共同主宰、建築設計を行う。実務の経験を生かし、建築設計演習を中心に担当。

定員 ▶ 15名

日時 ▶ 5月21日 土曜日 10:00～12:30

10:00～10:30 ショートレクチャー(概要説明)
10:10～11:55 見学
旧朝倉邸・ヒルサイドテラス・代官山T-SITE(ツタヤ書店)・ASO・ログロード(東横線跡地)・代官山アドレス(旧同潤会代官山アパートメント)・デンマーク大使館
12:00～12:30 まとめ、質疑応答

*集合場所: 代官山ヒルサイドテラスA棟コーナープラザ(10:00)

受講料: 在学生 1,000円、卒業生 2,800円、一般 3,000円

お問い合わせ窓口

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1
4号館学生課 共立アカデミー
TEL.03-3512-9981

▼ 環境学習への取り組みバックナンバーのご案内

過去5年分のパンフレットが、ホームページでご覧いただけます。



<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/about/outline/kankyo/index.html>



2011年度



2012年度



2013年度



2014年度



2015年度

共立女子大学・共立女子短期大学
環境学習への取り組み 2016

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/>

編集: 学生課 監修: 国際学部 細野豊樹(教授)、生活科学科 三井直樹(教授)

130th
共立女子学園 創立130周年
1886・ANNIVERSARY・2016

